

教育学ほか

- | | |
|---|--|
| <p>大森弘著</p> <p>新版 道徳教育の研究〔第2版〕
一子どもたちに生きる喜びを—
A5判並製222頁/1800円</p> | <p>道徳教育や教育相談に長年かかわってきた著者の愛国の教育論と多くの指導資料を収録。大学の講義のテキストであるとともに一般人への問題提起の書。「生命情操「感性」といった新しい概念を導入し、いのちとそのつながりを大切に生きて生きる喜びを実感する心を育てる道徳教育を提言する。
〔6094-8・09〕</p> |
| <p>内山宗昭・栗栖淳編著</p> <p>道徳教育の理論と方法
〔第2版〕
A5判並製306頁/2500円</p> | <p>「道徳科」とともに、学校教育全体、社会に開かれた連携のなかで、より広い道徳教育の在り方を問う。教職をめざす学生にとって、道徳教育の様々な面の理解に役立つとともに、道徳教育の実践指導へ向けた援けになることを志向するテキスト。
〔9279-6・21〕</p> |
| <p>磯辺武雄・金泰勲・山崎真之著</p> <p>生徒指導・進路指導の方法と実際
A5判並製224頁/2200円</p> | <p>教職を目指す大学生・短期大学生だけでなく、実務に携わっている現場の教師にとっても利用しやすいものとなっている。「生徒指導・進路指導」の基礎・基本の理論、方法および実際を確認し、かつ実践的指導に生かしていくうえで良き手引きとなる。
〔9255-0・15〕</p> |
| <p>宮野安治・山崎洋子・菱刈晃夫著</p> <p>講義教育原論
人間・歴史・道徳
A5判上製256頁/2800円</p> | <p>パスカルのいう「宇宙の栄光にして屑」としての人間。教育とは、この複雑怪奇な生物に向けられた、同じく複雑怪奇な生物による営みの一つである。わかりやすい講義形式による教育原論。人間、歴史、道徳の三方面から、教育の根本理論に関心を抱くすべて読者に向けた、ラディカルかつスリリングな誘い。
〔6096-2・11〕</p> |
| <p>菱刈晃夫著</p> <p>からだで感じるモラリティ
情念の教育思想史
A5判上製272頁/3500円</p> | <p>現代社会に生きる私たちの多くは、ますます自己存在の無意味感もしくは不安に苛まれつつある。そもそも生きて存在すること自体に何の意味などあるのか。ひたすら物質的繁栄を追求し無常感に覆われる現代において、道徳や教育が原理的に拠り立つ意味とは何か。その目的とは。情念と教育の関係にも迫る。
〔6097-9・11〕</p> |
| <p>菱刈晃夫著</p> <p>教育にできないこと、できること〔第5版〕
教育の基礎・歴史・実践・研究
A5判上製392頁/3400円</p> | <p>時間の経過とともに変わっていく、あるいは変えられていく人間にとって、教育が直接「できること」と「できないこと」を区別することを通して、さまざまな観点から「教育という習慣」に、改めてアプローチする。
〔6122-8・22〕</p> |
| <p>菱刈晃夫著</p> <p>近代教育思想の源流
スピリチュアリティと教育
A5判上製342頁/3500円</p> | <p>西洋近代教育思想の源流はどこに求められるのか？それはスピリチュアリティのクオリア（質感）にあらう。本書はスピリチュアリティのクオリアが生成してくる〈わたし〉の存在位置を明らかにした上で、その系譜をプラトンから فرانケ までたどっている。中心となるのはルターとメランヒトンである。
〔6082-X・05〕</p> |

菱刈晃夫著

メランヒトンの人間学と教育思想

研究と翻訳

A5判上製510頁／9000円

〔6115-0・18〕

宗教改革史の重要な脇役としてこの運動を支え、教育という具体的な実践を通じてルター神学の理念を現実化したメランヒトン。その人間学から展開される学問世界を明解に描き出す好著。

神辺靖光・長本裕子著

花ひらく女学校

女子教育史散策 明治後期編

46判上製392頁／3200円

〔6121-1・21〕

明治前期に芽吹き、後期に開花した女子教育について、各女学校の「創立沿革史」を基本史料として、国民の封建思想との戦いや風俗世相が激変する時代における特に女性の行動の変化について点描する。

神辺靖光・米田俊彦編

明治前期中学校形成史

府県別編Ⅴ 南畿南海

A5判上製412頁／6900円

〔6123-5・22〕

大阪府・奈良県・和歌山県・徳島県・高知県を対象として、1872年の「学制」前後から1886年の「中学校令」による尋常中学校発足までの時期における、中学校の形成過程を府県別に叙述する。

谷本宗生著

学都金沢形成の様相

近代日本官立高等教育機関の設置過程

A5判上製176頁／4200円

〔6111-2・18〕

明治初期の学制期以降、官立高等教育機関群が北陸金沢に設置されて来た過程を追求。金沢という都市の「学都」という歴史的な側面とその形成過程を明らかにする研究書。

竹原幸太著

RJ 叢書11

教育と修復的正義

学校における修復的实践へ

A5判上製160頁／3500円

〔6112-9・18〕

RJ研究会及び共生と修復研究会での研究を基軸として、多くの方々の「学際的対話」とそこで得た学びを通じて、学校における修復的実践の理論的考察をまとめた研究書。

竹原幸太著

立ち直り・甦りの教育福祉学

少年司法の軌跡と甦り

A5判上製276頁／6000円

〔6125-9・22〕

少年司法の軌跡を辿りながら、成長発達過程で、つまり、失敗してしまった子どもの立ち直り・更正（甦り）を支える教育福祉の論理を探り、「甦り（そいく）」という用語で現代社会へ問題提起する。

金井香里・佐藤英二・岩田一正・高井良健一著

子どもと教師のためのカリキュラム論

A5判並製294頁／2400円

〔6116-7・19〕

カリキュラムを「教師が組織し子どもたちが体験する学びの経験の総体」として捉え、カリキュラムをめぐる一連の営みにおける教師の役割と子どもの学びの経験についての最新の知見を提供する。新学習指導要領を創意的かつ批評的に活かすカリキュラム論テキストの決定版。

白井嘉一・金井香里編著

学生と教師のための現代教育課程論とカリキュラム研究

A5判並製372頁／2800円

〔6103-7・12〕

大学における教育学専攻生・教職志望学生のテキストおよび学校教師のカリキュラムデザインの指針作成において活用できる待望の教科書。歴史的背景を視野に入れた教育論争の整理・検討など類書に見られない特徴をもつ。

早稲田大学平山郁夫記念ボランティアセンター編

学生の心に灯を灯す

早稲田大学平山郁夫記念ボランティアセンター20年の挑戦

A5判並製292頁/3500円

〔6124-2・22〕

早稲田大学平山郁夫記念ボランティアセンター編

体験の言語化

A5判並製290頁/3500円

〔6110-5・16〕

早稲田大学平山郁夫記念ボランティアセンター編

体験の言語化ガイドブック

B5判並製84頁/1400円

〔6113-6・18〕

正田良編著

算数・数学って怖くない

〔増補版〕

A5判並製232頁/2200円

〔8065-6・11〕

松井かおり著

中学校英語授業における学習とコミュニケーション構造の相互性に関する質的研究

A5判上製260頁/3500円

〔8069-4・12〕

矢口徹也著

女子補導団

日本のガールスカウト前史

A5判上製424頁/3500円

〔6087-0・08〕

矢口徹也編著

社会教育と選挙

一山形県青年団、婦人会の共同学習の軌跡―

A5判上製274頁/3000円

〔6100-6・11〕

森下一・池田雅之編著

てらこや教育が日本を変える

〔改訂普及版〕

46判並製280頁/1500円

〔6106-8・13〕

早稲田大学平山郁夫記念ボランティアセンター(WAVOC)設立20周年記念。「誰かのためにになりたい」「世界をよくしたい」という学生の心に灯を灯すボランティアや社会貢献活動への挑戦。

ボランティア活動、アルバイト、サークル活動等、多様な体験を言語化し、他者に伝える教育実践が、社会的な課題に対する学生の当事者意識を高める。このような「体験の言語化」を体系化し、その理論と実践の方法論を示そうというもの。教育関係者必読の書。

体験を自分の言葉で語る「体験の言語化」授業の方法論を教育実践者用にまとめた手引書。

学習指導要領が小学校・中学校ともに、2008年に改訂され、小学校では2011年、中学校では2012年から新しい教科書が使われる。また指導要録での観点の改訂などに対応して増補を行なった。

教室でのコミュニケーションが英語の学習とどのように結びついているのか、また授業者の授業観や教育目標がその人の授業実践とどのように関連するのかを、あるひとりの熟練英語教師の授業実践を通して探る。

女子補導団はイギリスのガールガイドを導入した女子成年教育の先駆である。大正期からキリスト教主義女学校を中心に東京、大阪、神戸、盛岡、大連等でグループワーク方式の活動を行ない、戦後はガールスカウトに改められて、戦後社会教育のモデルともなった。その教育的意味を歴史的に検証する。

社会教育で共同学習が提唱されたのは1952年の選挙浄化運動の中でことであり、それは、当時の地域青年団、婦人会による政治教育への取組みを背景としたものだった。本書は、戦前、戦後の選挙浄化と社会教育の関係を確認しつつ、山形県青年団、婦人会の活動を中心に共同学習提唱のすじみちを明らかにする。

今、日本全国で教育再生プロジェクト「てらこや」運動が始まっている。本書はその原点となったNPO法人「鎌倉てらこや」活動の10年間の軌跡をたどったもので、地域総がかりによる未来への人づくり・まちづくりの実践活動の全容を鎌倉と早稲田大学から報告・発信する。

W.キャンデイ & R. イエーツ編著／
同志社大学法教育研究会誌

小学校で法を語ろう

カナダやアメリカ合衆国の法律と初等教育の専門家が、小学生に対して法教育を行うという取組みを展開するためのさまざまな実践例を提案。日本の初等法教育に多くのヒントを提供する。

A5判並製236頁／3000円

[0584-0・15]

哲学・心理学・宗教学

村上恭一著

哲学講義〔補訂版〕

46判上製440頁／3000円

哲学は、古来真によき生を問う人生知的な性格をもつものと見なされた。が、人生論としての知識が哲学のすべてではない。真実の人生観は、それに相即する世界観に根ざすものでなければならぬ。それを問うことは形而上学の問題に関わることにもなる。この書では、これらの哲学上に関わる諸問題を平易に解説する。〔6084-6・05〕

村上恭一著

哲学史講義

A 5 判上製466頁／3500円

〈主要目次〉序論 「哲学史講義」へのアプローチ 第一部 「ソクラテス以前」の哲学 I. 初期ギリシア哲学 II. ヘレニズム・ローマの哲学・抄 第二部 哲学者とソクラテス

〔6095-5・10〕

村上恭一著

倫理学講義

46判上製476頁／3000円

人間生まれながらにして、幸福を願わない者はいない。幸福への願いが、人間の心に、ただ生きるのではなく、与えられた人生をよく生きなければならないとの自覚を促すことになる。真によき生とは何か。この問いをめぐって、自己修煉しようとするとき、人間はどうしても哲学に拠らざるをえない……」(本書「まえがき」から) 〔6077-3・03〕

村上恭一著

論理学講義

46判上製444頁／3000円

本書では、真に思惟することへの手引きとして、まず論理学以前の論理の誕生から説き起こされ、次に古典的な形態としてアリストテレスの論理学および伝統的形式論理学が詳論される。さらに近世の認識論的論理学および弁証法の論理への展望から、論理学とは何かを考える。本書は、西洋論理学史をもかねる。〔6065-X・98〕

井上昌計著

論理学

A 5 判上製248頁／2200円

現代のような情報過多の時代には、情報を正しく処理する能力が求められる。何が真であり、何がまやかしてあるかを見極める思考力が必要とされる。論理学は、正しい思考のあり方を研究する学問であるから、正しく思考する訓練を積み重ねることにより、もろもろの事象を論理的に処理できるようになるであろう。〔6009-9・78〕

久遠ナオミ著

あなたとわたしの境界線

自分の人生を生きる

46判並製200頁／1600円

人気心理カウンセラーが、アスペルガー症候群、ADHDをはじめとする大人の発達障害やカサンドラ症候群、人生の転機となる結婚・離婚などについて解説！豊富なカウンセリング経験により、そこに潜む心理を紐解きます。

〔6117-4・20〕

佐藤悦成編著

愛知学院大学国際研究センター叢書4

現代社会と宗教

A 5 判上製306頁／4000円

日本・アジア・欧米の各地域において現在機能している宗教を対象とし、そこでの人々の生活に密着している宗教の過去から現在を俯瞰しつつ、その課題と展望を論じた宗教研究の必読書。

〔6105-1・13〕

善家幸敏著

日本における宗教と政治

国家と宗教とがいかなる関係にあるかという問題を、我が国の主要な宗教、宗教史上の重要な事件と運動、代表的な信仰及び宗教観念等を縦割構成で、事項別に取り上げ、各事項毎に一般史と関連づけて記述されている。

A5判上製314頁／5500円

〔0375-3・04〕

スポーツ・健康科学

- | | |
|---|--|
| <p>日本スポーツ法学会編</p> <p>詳解スポーツ基本法</p> <p>A 5 判並製388頁／3200円</p> | <p>2011年6月に制定された「スポーツ基本法」の解説書。制定に至る経緯を述べたうえで、スポーツ関係者がスポーツ基本法をどのように利用すべきかを具体的に示した。日本スポーツ法学会が総力をあげて執筆に取り組み、すべてのスポーツ関係者におくる。</p> <p>[8068-7・11]</p> |
| <p>菊幸一・齋藤健司・真山達志・横山勝彦編</p> <p>スポーツ政策論</p> <p>A 5 判並製522頁／3500円</p> | <p>スポーツ政策に関するわが国初の体系書。</p> <p>第1編 スポーツ政策の理論と制度／第2編 国によるスポーツ政策／第3編 地域のスポーツ政策／第4編 特定スポーツ政策と他の政策サブシステム</p> <p>[8067-0・11]</p> |
| <p>吉田勝光著</p> <p>スポーツと法の現代的諸問題</p> <p>A5判上製266頁／5200円</p> | <p>スポーツ法学の基本から、実務的で具体的なスポーツ事故・スポーツ仲裁判断・住民訴訟、スポーツ審判、オリンピック・パラリンピックといったテーマにつき、法解釈論から立法論まで展開。</p> <p>[3400-0・20]</p> |
| <p>田中暢子ほか編著</p> <p>実践で学ぶ! 学生の社会貢献</p> <p>スポーツとボランティアでつながる</p> <p>B 5 判並製340頁／2700円</p> | <p>スポーツボランティアに焦点を当てつつも、広く社会貢献活動という枠組みから、その意義・基礎、対象者別の方法論まで、実践に役立つよう解説する教科書。巻末のサービス・ラーニング実習例は、実際の活動現場への橋渡しとなる。</p> <p>[8080-9・18]</p> |
| <p>グレン M. ウォン・川井圭司著</p> <p>スポーツビジネスの法と文化</p> <p>アメリカと日本</p> <p>A 5 判並製396頁／3500円</p> | <p>いま、スポーツ界に何が求められるのか。学校スポーツの商業化、薬物、労使紛争、選手の海外流出などスポーツの今日的課題について日米のスポーツ法学者が比較文化の観点から議論を喚起。カラー図表・写真を多用し、わかりやすく解説する。スポーツ法、政策、経営、文化を学ぶすべての人に贈る必読書。</p> <p>[8070-0・12]</p> |
| <p>齋藤健司著</p> <p>フランススポーツ基本法の形成</p> <p>A 5 判上製1112頁／18000円</p> | <p>スポーツ法は、新しい現代法として近年著しい発展を遂げている。本書は、世界的にもその発展が著しいフランスのスポーツ基本法が特殊な法体系を備えるに至った歴史的過程を、スポーツ政策、立法過程、裁判例、関連する諸事実をもとに総合的に実証し、スポーツ法の構造と理論体系を初めて明らかにする。</p> <p>[3226-6・07]</p> |
| <p>高峰修編著</p> <p>夢と欲望のオリンピック</p> <p>その多様な姿</p> <p>A5判並製288頁／3200円</p> | <p>「第1部 オリリンピック概論」「第2部 オリリンピックと政治」「第3部 オリリンピックと経済」「第4部 オリリンピックと社会」「第5部 オリリンピックと文化」の構成で、オリンピックを多角的に分析する。</p> <p>[8084-7・20]</p> |

日本スポーツ法学会編

東京2020オリンピック・パラ
リンピックを巡る法的課題

A5判並製330頁／5000円

スポーツ仲裁, 経費問題, コロナ対策と Playbook, ジェンダー, 復興五輪, 人権問題, 五輪汚職, 代表選手選考, 平和, 環境問題などのテーマについての理論・実務両面からの研究成果。

[8088-5・23]

日比野幹生著

ドーピングの誘発と抑止

A5判上製198頁／4500円

アンチドーピング政策のための社会科学研究的現状を開くために, エリートアスリートやコーチを対象として, 当事者の経験などからドーピングに影響を与える要因を明らかにする。

[8087-8・23]

平塚卓也著

戦後体育行政の形成過程

A5判上製128頁／2700円

戦後体育行政の形成過程を事例として, スポーツ政策の政策形成過程を理論的かつ実証的に明らかにすることによって, スポーツ政策学研究的発展に貢献することを目的とする。

[3436-9・23]

小山啓太著

グリーンブックレット 6

現代社会のスポーツ総合学 I

スポーツとともに生きるエキスパート達の提言

A 5 判並製118頁／800円

Chapter 1 スポーツマネジメント／Chapter 2 スポーツと教育／Chapter 3 プロフェッショナルスポーツ。

[9226-0・12]

歴史・語学・文学・随筆等

西尾林太郎著

大正デモクラシーの時代と貴族院

A5判上製448頁／6000円

本書は、貴族院の最大会派・研究会のリーダー水野直(子爵)の未刊史料を駆使しつつ、〈大正デモクラシーの時代〉の議会政治を、従来の衆議院、政党の側からでなく、貴族院の側の視点で捉えた画期的研究である。従来、殆んど知られて来なかった互選議員選挙の実相も解明される。 [3196-X・05]

西尾林太郎著

大正デモクラシーと貴族院改革

A5判上製398頁／5400円

明治・大正前半期における貴族院の動向と「病理」現象を明らかにし、改革の必要性を説き、後押しした吉野作造や美濃部達吉の言説に注目する。貴族院改革の政治的意義を論ずる研究書。 [3345-4・16]

柴田哲雄著

協力・抵抗・沈黙

汪精衛南京政府のイデオロギーに対する比較史的アプローチ

A5判上製460頁／8096円

本書は、第二次大戦時のいわゆる傀儡政権・汪精衛南京政府に関する本邦初の本格的な学術研究書であり、特にイデオロギーの諸相に関して解明した。本書の特筆すべき点は同時代のヴィシー政府との比較であろう。博士論文(京大大学人間・環境学)が基となり、学術振興会の研究成果公開促進費を交付。 [7085-5・09]

栗田直樹著

平等の時代

A5判上製148頁／3000円

昭和20年8月の敗戦をはさむ数年は、日本人の平等に対する欲求が異様に高揚した「平等の時代」であった。有産者が一般大衆の平準化圧力や左翼化した右翼からの攻勢にさらされ、共産革命の予感が社会を覆ったこの時代を、当時を生きた人々の日記や回想を駆使してわかりやすく描き出す。 [3268-6・10]

栗田直樹著

共産中国と日本人

A5判並製288頁／2900円

戦後日本が描いたさまざまな隣国の中国像を振り返り、日本人と中国人について考える。 [3342-3・16]

栗田直樹著

原敬日記を読む

A5判並製204頁／2500円

明治・大正の政治史を叙述し、藩閥政治に対して、政党という組織を支えとして立ち向かい政党内閣の樹立という日本憲政史上の偉業を成し遂げた原敬の日記を通じて、政治家のものの考え方を読み解く。 [3371-3・18]

栗田哲雄・やまだあつし編著

中国と博覧会〔第2版〕

中国2010年上海万国博覧会に至る道

A5判上製178頁／2300円

本著は科研の共同研究成果の一部であり、上海万博の開幕を機に上梓された。第一部では清朝末期の南洋勸業会から上海万博に至るまでの、各時期の中国中央・地方政府により実施された博覧会について論じた。第二部では日本の植民地・占領支配下での博覧会と中国・台湾の関わりについて考察した。 [7101-2・14]

白春岩著

李鴻章の対日観

「日清修好条規」を中心に

A 5 判上製292頁／6000円

(7104-3・15)

近代日中間係史のキーパーソンである「李鴻章」と、日清両国間のはじめての条約「日清修好条規」を中心に考察することで、新たな視点を提供する研究書。

山中敬一著

プロイセン皇孫日本巡覧と吹田遊獵事件

ドイツ帝国東アジア進出と治外法権外交

A 5 判上製302頁／6000円

(0701-1・22)

明治時代に来日した外国の皇族が19世紀の日本と世界の時空を駆け抜ける「旅行記」を歴史的背景事情の中に位置づけようとしたもの。

中京大学社会科学研究所編

社研叢書16

東シベリアの歴史と文化

A 5 判上製284頁／3000円

16世紀後半からロシア人はウラルを越えて東進し、広大なシベリアを領土化していった。前書『西シベリアの歴史と社会』に続き、東シベリア、極東へのロシアの進出をめぐる諸問題を歴史、先住民、文化、宗教の面から探究した書。ポストソ連15年目の同地域の人口動態にかかわる問題についても言及。

(7073-6・05)

安村仁志編

社研叢書28

ロシアのシベリア進出史

A 5 判上製230頁／3000円

8本の論稿をもってロシアの東進、領土拡大の動きの全体を明らかにすることを目指し編集されたもの。巻末に主な河川を中心とする関連地名のリスト、年表、河川図。進出図、文献等を付す。1. 南シベリアの先史文化 2. 16世紀半ばまでのシベリア進出前史3. 西シベリアへの進出／など

(6098-6・11)

山崎眞次著

メキシコ先住民の反乱

敗れ去りし者たちの記録

46判上製232頁／3400円

(7102-9・15)

政府やアセンダドによる不当な土地の強奪によって共同体を破壊され、武装蜂起したが道半ばで倒れた先住民農民たちの無念の思いを代弁する書。正史には綴られていない歴史の陰に光を当てた興味深い記録。

乾昭文・山本充義・川口芳弘著

電気機器技術史

事始めから現在まで

A 5 判並製156頁／3000円

(8073-1・13)

近世における電気工学の開幕以来、電気利用の範囲と規模の拡大の過程を、電気の発生、供給、利用に焦点を当てて、電機機器の発展経緯を歴史的にたどる。電気工学を学ぶための必読書。

片岡寛光著

リーダーの世界

A 5 判上製638頁／9800円

(3311-9・13)

朱熹は、まだ10歳の頃、孟子の「聖人も我と類を同じくす」という言葉に触れ、「聖人もまた傲し易し」と発奮したという。リーダーは意志の産物であり、自己の肯定によって最もよく自分を含む人々の幸福の増進に貢献する。

阪本英樹著

成文堂選書37

月を曳く船方

清末中国人の米欧回覧

46判上製210頁／2300円

(9111-3・02)

明治元年(1868)、中国最初の外交使節団が紫禁城を出発した。蒲安臣使節団である。しかし、いままでこの使節団の記録は歴史の深い闇に埋もれてきた。本書は、主に中国側の史料によって使節団の全貌を解明し、東西文明史や比較文化論的観点からその歴史的意義を鋭く問いただした意欲作である。

濱田英作著

成文堂選書36

中国漢代人物伝

46判上製228頁／2300円

今を去ること二千年前、前漢代の中国。そこには司馬遷を筆頭に、個性と自己主張の強い人間たちがひしめき、ドラマを織り成していた。本書は、中国正史の内、「史記」に続く『漢書』の登場人物を取り上げ、現代的な問題意識をもって、その姿を生き生きと描き出す。それは history となった story なのだ。 (9110-5・02)

新里卓編著

専門学へのいざない

A 5 判並製274頁／2800円

(7111-1・20)

「言語学」「文学」「社会学」「政治学」「国際関係学」「経済学」「経営学」「法学」の構成で、読者に学問の本質や楽しさを分かってもらうよう、各分野の専門家が「本気で」伝える入門書。

西谷尚徳著

グリーンブックレット⑧

国語表現 I

A 5 判並製96頁／800円

(9234-5・13)

大学生として身に付けるべき基本的な国語表現はもとより、レポート作成や論文執筆における文章表現能力など、大学4年間での学修に必要な知識の習得について詳述した解説書。

西谷尚徳著

グリーンブックレット⑩

国語表現 II

A 5 判並製140頁／800円

(9243-7・14)

大学生が身に付けるべき国語・文章表現を学ぶ好評の教材第2弾。大学でのレポートや論文から社会人生活までを視野に入れた理論実践編。

字田川駿著

現代米語表現ワークブック

(第2版)

A 4 判並製68頁／1600円

簡単な単語はコワイ。英語学習者がよく経験するこんな思いも、本書で取り上げた単語やイディオムをきっかけとして、英語という言語の持っている面白さ、奥行きに魅せられる。使いやすさ抜群の教科書。身近な単語が持っている様々な意味やイディオムの研究に取り組むことができる。 (9260-4・16)

丹下博文著

NEGOTIATION and MARKET GLOBALIZATION

A 5 判上製156頁／2400円

(9267-3・17)

本書は主に国際的な活動に関心のある研究者や実務家向けの専門書であるとともに、大学等における英語のリーディング(講読)または経営・経済系の講座の教科書や副読本、あるいは自習用の参考書として使用できるよう作成されています。

初宿正典著

成文堂選書18

新版 暇つぶしは独語で

ドイツ留学体験記ほか

46判上製296頁／2300円

(7089-3・10)

若き頃のドイツ留学のさまざまな体験談と、著者の長年のドイツ語とのつきあいから得た豊富な話題が満載のドイツ語談義。新たにロマンティック街道の起点ヴェルツブルクでの3ヶ月間の滞在中の経験談を加えた新版。

藤森馨著

図書学入門

A 5 判上製164頁／2300円

(7094-7・12)

図書を科学的にあつかう学問としての「図書学」の概説書。初学者も理解しやすく、解題・目録や装訂の歴史がわかる!

照屋佳男著

学際レクチャーシリーズ8

文学と哲学のあいだ

46判上製214頁／2233円

〔7049-3・91〕

文学を哲学の認識源泉とのつながりにおいて捉え、更に文化の本質を論じる。特殊と普遍との相互的な関係を見失うことなく、文学や文化の最も基本的な、しかし最も見過されやすい側面に光を当て、読者を文学と文化の中心部へ案内する。

照屋佳男著

学際レクチャーシリーズ11

文学から文化へ

〈特殊〉の再発見

46判上製242頁／2427円

〔7055-8・93〕

文学は哲学に劣らぬ重要な知的活動の分野である。文学と文化について思索を重ねてきた著者が、文学の研究を基にして異文化理解の本質に迫る。

内藤明著

学際レクチャーシリーズ18

うたの生成・歌のゆくえ

46判上製284頁／2500円

〔7060-4・95〕

和歌・短歌を中心に、古代と近・現代を往還しながら、日本文学の基層にあるものを探り、今日を生きる人間と文化の問題を考える。Ⅰ自然、Ⅱ身体、Ⅲ都市、Ⅳ言葉・構造・主体。

浜田泉著

中村光夫とフロベール

ロマン主義のあとさき

A5判上製334頁／6800円

〔7109-8・19〕

近・現代文学に新境地を切り開いたG.フロベールと近代日本文学に彼を移植した昭和の文学者中村光夫。青春の熱情と憂悶、老年の知恵と哀しみを表示する東西の文学者に光を当て再検討する。

浜田 泉著

成文堂選書47

夢の代価

ケルト／フランス・日本の近代文化

46判上製290頁／2500円

〔7079-4・07〕

古代ガリア＝ケルト文化から中世を経て、ルソー、仏革命やナポレオンの興亡期、またバルザック、ユゴー、ネルヴァル、デュラスら近・現代文学の中に聞きあい、滔々と流れるケルト・ロマン主義の精神。明治日本の先導期、西洋を究める叡才兆民。蓋世の英雄西郷にケルトの死生観、アニミズムが重なる……。

植木哲著

成文堂選書51

法学と文学・歴史学との交錯

46判上製270頁／2500円

〔9202-4・10〕

鷗外の恋人エリスを法律学的観点から特定したユニークな著作。『舞姫』を通じて読み解く法学と文学・歴史学に関する学際的研究。100年前の人探しを通じ、戸籍簿、不動産登記簿、商業登記簿等の各種記録の集め、読み解く楽しみを味わう。日本民法の母法であるドイツ法との比較研究の大成果。

山中敬一編

法に生きる

法曹を志す諸君へ

A5判並製308頁／2500円

〔0392-3・05〕

検事総長・日弁連会長・高裁長官等の高名な実務経験者による貴重な体験談。法曹を志す若い皆様、特にLS学生への熱いメッセージ!!

奥島孝康著

西北風

46判上製286頁／1845円

〔9050-8・95〕

早稲田の杜を発したおおらかな西北風は、あるときは旅情に誘われるまま山懐へ、あるときは赤黒のラグビー・ジャージ軍団と共に世界へ、そしてまた憧憬の都巴りの巷へと吹き渡り、爽やかな旋風を巻き起こす。学問と酒と、何よりもワセグを愛する奥島孝康早大総長が刻む青春の時。

奥島孝康著

前早大総長が、ワセダを担った人々への深い思い、出会いと交遊、自らの生い立ちを語る随筆集。

西北への旅人

46判上製460頁／3500円

〔9112-1・02〕

奥島孝康著

大学マネジメントやロースクールなどの法曹養成。大隈重信、小野梓また、早稲田大学の教育のあり方の根本と思われるものについて。さらには、ボランティア活動その他の社会活動や自身の生い立ちの記から、大学時代を回想したもの、読書遍歴や山行など様々なテーマで語るエッセイ。

西北からの旅人

46判上製624頁／4000円

〔9196-6・10〕

中山研一著

研究・教育の中で多くの方に支えられた一刑法学者の邂逅。生い立ち、少年時代、激動の時代であった戦中から戦後の清水高等商船学校、京都大学学生・院生時代、研究者としての過ごした京大、大阪市大、北陸大の日々、恩師の先生方について、法科大学院について、奥様との日々を綴る。

定刻主義者の歩み

46判上製290頁／1800円

〔7081-7・07〕

「中山研一先生を偲ぶ」文集刊行委員会編

在りし日の中山研一先生を偲ぶ追悼文集。

定刻主義者逝く

中山研一先生を偲ぶ

46判294頁／1500円

〔7093-0・12〕

大谷實著

個人主義の徹底、幸福の追求、人生の目的、人生行路……。同志社総長が語る新たな挑戦。

明日への挑戦

46判上製218頁／1800円

〔9128-8・04〕

大谷實著

学者の生き方、教育のあり方……。法学者として、同志社総長として『生き方』の指針を示す。第1部／回顧と展望、第2部／現代のことは、第3部／同志社ブランド、第4部／生命の尊厳。

続・明日への挑戦

46判上製200頁／1800円

〔9182-9・08〕

大谷實著

第1部 人生行路のあゆみ／第2部 人生問題／第3部 研究活動／第4部 同志社の将来。

我が人生、学問そして同志社

46判上製266頁／1900円

〔9232-1・12〕

大谷實著

後進に道を譲る願いを込めて同志社の過去を振り返り、未来への航路を拓くために……。同志社総長としての「思い」を記す。

同志社総長『思い』を語る

46判上製234頁／1900円

〔9261-1・16〕

香川達夫著

か す み 草

46判並製208頁／1000円

[9194-2・09]

「老松」「勿忘草」に次ぐ3冊目の随筆集。第1章顧みれば80余年。第2章忘れじの国々。第3章心の草は霜枯れもなし。

香川達夫著

帰 ら ざ る 日 々

46判並製92頁／900円

[9244-4・14]

戦争を経験した著者が、過去を振り返りながら、硬軟・動静の差を超えて、いくつかの話題を思いつくままに纏めた。時代の流れに翻弄されながらも、勉学の徒として生きてきた記録。

前田達明著

風 紋 の 日 々

46判上製338頁／2500円

[7090-9・10]

本書は、著者が、これまでに法学を研究する中で、その折々に書かれたエッセイを中心に4部構成で纏めたもので、著者の専門以外の一面を知る貴重な文集である。

前田達明著

続・風 紋 の 日 々

46判上製176頁／2500円

[7110-4・19]

法学を研究する中でその折々に書かれたエッセイを中心に、「趣味悠々」「法の諸々」「徒然の草々」「信仰の折々」の四部構成でまとめ、著者の専門以外の一面を知る上で貴重な随筆集。

佐伯千仞・井戸田侃・浅田和茂著

疾風怒涛 一法律家の生涯

佐伯千仞先生に聞く

46判上製244頁／2200円

佐伯博士は2006年に98歳の生涯を終えたが、傘寿を機にヒヤリングが行われた。本書はその記録である。戦前・戦中・戦後と激動の時代を刑法学者として戦後は弁護士としても活躍された博士の生涯は、まさに疾風怒涛であった。博士から見た滝川事件の真相、戦後の教職追放の経緯などが今明らかになる。 [7092-3・11]

森下忠著

ある刑法学者の旅路

46判上製314頁／3200円

[7098-5・14]

学生時代に志願囚となった刑法学者が、京都大学を中心とした大学紛争の嵐を越えて緊急避難、刑罰論、国際刑法の分野で大きな業績を挙げ活躍をした「愚直一筋」の生涯の記録。

森下忠著

海 外 刑 法 の 旅

46判並製466頁／4500円

[7107-4・17]

著者が1964年から2003年までの40年間の間に、三たびパリ大学で在外研究に従事し、また、15回にわたって各種の国際会議に出席するため諸外国を訪れた際に印象に残った事柄を書き綴ったエッセー。

西原春夫著

[聞き手] 井田良・佐伯仁志・高橋則夫
私 の 刑 法 研 究

46判上製272頁／3000円

[7105-0・15]

刑法研究者としての生き方を通して「人生は大事なことほど偶然で決まる」という原理を探り出す。人はいかに生きるべきかについて数々の貴重な示唆と教訓を得ることのできる回顧録。

曾根威彦著

著者の半世紀近くにわたる刑法学との歩みを論説風・随筆風に記したものの。

我が刑法学の歲月

46判上製188頁／1800円

[7099-2・14]

野村稔著

筆者の刑事法研究会等に関連した「思い出」を纏めた随想集。

刑法と人生

46判上製176頁／1800円

[7103-6・15]

田口守一著

刑事法学の根本問題を、研究生生活を回顧しつつ、比較法の随想も交えて点描する。

刑事法学点描

46判上製196頁／1800円

[7100-5・14]

浅田和茂著

これまでの刑事法研究を振り返り、折々の雑感などを集めたもの。

遠ざかる風景

私の刑事法研究

46判上製130頁／1800円

[7106-7・16]

高内寿夫著

高等学校での出張授業をきっかけに「人権とは何か」を考察したうえで、その基底にある「人間の尊厳」について検討し、最後に、人間の尊厳のさらに根源にある世界観についてまとめた書。

人権の精神

私たちが理解すべきただひとつのこと

46判並製264頁／2400円

[6120-4・21]